

5 番 八重樫龍介です。

通告に基づきまして次の事項についてお尋ねします。

町長は施政方針において、移住・定住者事業そして子育てや若者世代への施策の充実等は掲げていますが、並行して取り組まなければならないのが、現役を引退した高齢者世代への施策であります。

本町は人口減少、少子高齢化が顕著に進んでいます。こうした中において、生涯現役社会を実現するため、働きたいと願う高齢者の就業率を高めていくことが大変重要と思われれます。誰もがいくつになっても活躍できる社会が求められています。

そこで、まず初めに岩泉町シルバー人材センターへの支援について伺います。現在、本町では岩泉町シルバー人材センターに対して補助金を年間 250 万円、また公衆トイレの清掃等の業務委託を行っています。

今年度の岩泉町シルバー人材センターの会員数は女性 35 人、男性 40 人で合計 75 人であり、平成 20 年代の約 130 人を最高に減少の一途をたどっています。減少の要因は、年間を通して安定した業務が無いことが最大の原因と思われれます。

シルバー人材センターは、地域の日常生活に密着した就業機会を提供することなどにより、高齢者の社会参加を促進し高齢者の生きがいの充実、健康保持、ひいては地域の活性化、そして医療費や介護費用の削減などに貢献しています。

これらの事から空き家、空き校舎の管理、こども園等の補助員業務の委託を行うなど、安定した事業運営が可能となる支援を行うべきと思いますが、町長の見解を伺います。

次に安家地区の振興施策についてお尋ねします。平成30年第3回定例会で伺いました、台風第10号豪雨災害により被災し撤去された安家産直施設と閉洞中の氷渡探検洞の今後の見通しについて改めて伺います。

現在、地区の中核的存在である安家小学校は今後閉校の予定であります。閉校により地区で行われている、ほとんどの行事が開催されなくなり、地区の衰退が危ぶまれます。

学校に代わる地区民のつどいの場は、無くてはならないと思われれます。地区内外の人との交流の場、そして数少ない現金収入の場でもありました、産直施設の再建は必要と思われれます。前回の答弁は、「設置場所や運営体制の構築について関係者の意見調

整を図り、地域の意向に沿える形で再建を進める考えである」と述べられています。現段階で町長の見解を伺います。

次に閉洞状態にある氷渡探検洞について伺います。

安家地区の魅力は、安家川と洞窟そして地元食材を使用した食事です。これらを融合させた取り組みにより交流人口の拡大が図られると思われまます。

今、盛んに進められている安家川河川改修工事は令和 4 年度完了の見込みです。インフラ整備は充実していても、利用されなければ、正に絵に描いた餅であります。

前回の答弁では、入洞者の安全の確保やリスク管理、費用対効果、運営体制等の課題をあげられていましたが、現在の状況と今後の取り組みについて伺います。

## 5番 八重樫 龍介 議員の御質問にお答えします。

まず初めに、シルバー人材センターへの支援であります。シルバー人材センターは「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき、県知事の指定を受け、高年齢者の就業機会の確保と生きがい対策の中心的な役割を担っていただいております。

シルバー人材センターは、営利を目的としない公益的な団体であることを踏まえ、その安定的な財政運営の確立のため、平成26年度から令和3年度までの間、総額で1,885万円を支援してきたところであります。

また、町では公衆トイレの清掃のほか、一人暮らし高齢者に対する軽度生活援助事業や紙おむつ支給に係る配達業務などを委託しております。

シルバー人材センターは、高齢者が培った技能を活かし健康で働くためにも、また住み慣れた地域で安心して暮らす高齢者のためにも、なくてはならな

い組織であると認識しております。

今後においても、シルバー人材センターの自助努力のもと、一層の業務の掘り起こしやPR活動などを積極的に行っていただくとともに、町といたしましても、安定した事業運営に資するよう引き続き支援してまいりたいと考えております。

次に、安家産直施設の再建についてであります  
が、本施設はコミュニティの形成や地域の活性化とともに地域資源を活かしながら活路を見出していくための重要な施設であると認識しているところであり、町といたしましては、地域の意向に沿える形で進める考えであります。

安家地区においては、令和2年から産直組合や地域振興協議会と連携しながら、定期的な直売会開催の検討や先進地視察を行い、再開の機運を高める計画でありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、思うような取組が実施できていない状況にあります。

このような中、安家産直組合の「お盆朝市」の開催や、地域振興協議会の「栗饅頭づくり」の調査など、少しずつではありますが、地域の皆様の機運が醸成されてきていると感じております。

地域の皆様が地域の資源を活かした「直売会」の開催などを徐々に拡大することは、安家地区の魅力を町内外に発信していくことにつながり、ひいては地域の活性化にもつながることになりますので、今後においても積極的に支援してまいりたいと考えております。

次に、氷渡探検洞であります。議員御案内のとおり、本施設は、安家地区の振興の観点から、氷渡交流施設とともに一体的に整備した体験型の観光施設であります。

しかしながら、運営していく中で様々な問題が発生したことから、平成22年3月、氷渡探検洞の諸問

題を調査した町議会氷渡探検洞調査特別委員会の御提言等も踏まえ、町としての方向性を検討した結果、安全対策などを講じる必要があり、現状のままでの運営は困難と判断し、閉洞としたところであります。

震災、台風からの災害復旧の見通しが立った時期の平成31年1月に、洞穴学の専門家とともに洞内を調査し、以降、定期的に調査を行いながら、この拠点施設をどのように位置付けていくか整理をすることとしておりましたが、その後のコロナ禍のため実施できないで現在に至っているところであります。

議員御案内のとおり、氷渡探検洞の魅力は入洞者が装着するヘッドライト一つで自然が作り上げた神秘を体験できる醍醐味がある一方で、狭く起伏に富んだ洞内の地形から、常に危険が隣り合わせというリスクの高い場所でもあります。

このことから万が一、入洞者が怪我や体調を崩した場合の対策及び洞外への退避方法を含めた万全な

安全確保も大きな課題であります。

今後、専門家から更なる指導を仰ぐとともに、地域の皆様の御意見もお伺いしながら、入洞者の安全確保に加え、費用対効果等についても精査し、この貴重な自然資源の有効活用については、引き続き、慎重に検討してまいりたいと考えております。

以上で答弁を終わります。